

# Shizuoka Prefecture's High School Basketball

## 静岡県高校バスケットの現在地

### プレイバック 静岡県高校バスケ 2017～2018

文=中島 洋己(県協会広報委員長・県立科学技術高校教諭)

現在、全国における静岡県高校バスケが『どのようなレベルにあるのか』を理解するために、昨年のウィンターカップから東海国体までの、静岡県勢の東海・全国での戦いを振り返ってみたい。  
(平成30年9月現在)

#### 【ウィンターカップ】 平成29年12月23日～ 東京体育館

男子代表の飛龍は初戦、興南(沖縄)に大勝し勢いに乗る高知中央と対戦。前日1人で44点を叩き出した203cmの留学生ジョセフネリー・ジュニアをいかに封じることが命運を握ることになったが、リュウ・ヤハオは相手が嫌がるくらいに体を密着させ、体力も気力も削いでいくことに成功、「アウトサイドの魔術師」伊東潤司も3P8本を決め、13年ぶりのウィンター勝利を挙げた。続く3回戦・全中優勝経験選手を多数抱える実践学園(東京)との戦い、関屋心がドライブ・3Pなど内外から八面六臂の大活躍で快勝、20年ぶりにベスト8進出を果たし念願のメインコートに立つこととなった。準々決勝、相手はインハイ3位・帝京長岡(新潟)。次々と難敵が続く中、ティレラ・タヒロウ、ブラ・グロリダというトップクラスの留学生に加え、インハイ準決勝で福岡大大濠と4度に及ぶ延長戦を戦い抜いたタフなフィジカルを併せ持つ相手に対し、飛龍は徹底的に鍛え上げたボールさばきでコートをかき回し、インサイドで果敢に肉体をぶつけていく、まさに目指す「スモールバスケット」の集大成のような試合を見せてくれた。惜しくも残り2分で逆転され、初の全国4強は果たせなかったが、我々に勇気と希望を与えてくれた証として月刊バスケットボール誌の「ウィンターカップ感動大賞2017」を受賞した。

女子代表・浜松開誠館はU18日本代表・今野紀花を擁する名門・聖和学園(宮城)の高さに大苦戦。平均身長で4cm勝る相手に前半27-27で折り返す。後半は前線から執拗なゾーンプレスで守る相手ディフェンスの包囲網に自慢の攻撃力を封じられる展開。ことごとくシュートコースを封じられ、苦しい体勢で打たされる場面が続いた。結局最後までリズムを掴めず51-63、悔やみきれない初戦敗退となった。それでも徹底マークされたエース石田悠月が両チーム最多の26得点をたたき出し孤軍奮闘、翌年からプレーするWリーグでの活躍を予感させた。

#### 【東海新人大会】 平成30年2月10、11日 一宮総合体育館、パークアリーナ小牧

今夏の愛知インターハイと同会場での開催となったこの大会、男子は飛龍、浜松開誠館、藤枝明誠、女子は浜松開誠館、駿河総合、市立沼津が出場した。

藤枝明誠は強豪・桜丘(愛知)と対戦、終始リードを保ったが残り2秒で同点に追いつかれ延長へ。インサイドのセコウ・ドゥクレが一人気を吐いたが、相手スコアラーの富永啓生に合計52点取られて初戦敗退。浜松開誠館は初戦名古屋大谷(愛知)にロースコアで勝ち、東海新人初勝利。続く

三重王者の四日市工業戦では善戦したが、水谷祐葵に要所でシュートを決められ惜しくも準決勝には進めなかった。飛龍は準決勝の桜丘戦・富永への対応に苦慮しながらも接戦を勝ち抜き、決勝へ。中部大第一(愛知)との決勝では相手留学生ブンカー・ンディアイエの強引なインサイドプレーに苦戦するが、リュウがゴール下のプレーに活路を見出し必死に喰らいつく。終盤相手シューター矢澤樹に決定的な3Pを決められ優勝は逃したが、「東海王者」を決めるのにふさわしい激戦となった。

女子は市立沼津が初戦でいなべ総合学園(三重)に惜敗、駿河総合は岐阜農林に競り勝ち初戦突破したが、続く四日市商業(三重)戦では相手の得点源・堀江ゆうみの突破力を止めきれず惜しくも2年連続の準決勝進出は果たせなかった。最後の砦・浜松開誠館は準決勝で桜花学園(愛知)と対戦、この大会31年連続出場を果たして過去3敗のみ、しかも準決勝は30連勝中という強豪相手にチーム一丸で挑み、見事歴史的勝利を飾った。県勢としても桜花学園戦の勝利は平成13年度の常葉学園以来16年ぶりとなった。ウィンター準優勝・安城学園(愛知)との決勝戦では力尽きたが、非常に価値のある準優勝となった。

【東海高校総体】平成30年6月16、17日 パークアリーナ小牧

男子は飛龍、藤枝明誠、浜松開誠館、女子は浜松開誠館、常葉大常葉、駿河総合が出場した。

藤枝明誠は愛知3位の愛産大三河にまさかの逆転負けで初戦敗退、浜松開誠館はインハイ出場を決めている桜丘(愛知)の留学生2人を完全に封じ逆転勝ち、続く2回戦、2月の東海新人で敗れた四日市工業にリベンジを果たせなかったが、点差は確実に詰まっており、県代表としての使命は十分に果たした。飛龍は留学生を擁する高山西(岐阜)、全国常連の四日市工業を撃破し、決勝で東海新人決勝の再現となる中部大第一と対戦。このあとのインハイで準優勝を果たすこととなる最強の敵相手にお互い一度も2ケタ点差に離れない互角の展開、センターのリュウが勝負どころで3Pを2本決めるなど最後まで懸命にリングに向かったが、最後まで運動量の落ちない中部大第一にあと一步及ばず。11年ぶりの優勝は逃したが堂々の準優勝を飾った。

安城学園と対戦した駿河総合はチームの得点源である野村菜由と鈴木美優が合わせて46点を記録、持ち前の堅いディフェンスも機能するが惜しくも初戦敗退。常葉大常葉は初戦・開催地枠でインハイに初出場する名古屋女子大学(愛知)に快勝、2回戦では岐阜女子と対戦、強豪相手に司令塔・北村音緒が3P6本を含む42得点という驚異的な攻撃力を披露したが、留学生188cmハディ・ダフェや高校生最高身長196cm勅使河原帆南のインサイドを最後まで止められなかった。浜松開誠館は初戦県立岐阜商業に快勝、準決勝で東海王者・安城学園に挑んだ。終始リードを許す苦しい展開だったが、残り50秒で山本涼葉のシュートで同点に追いつき延長戦に持ち込む。最後は安城のエース・野口さくらに連続得点を許して惜しくも勝利を逃した。3位決定戦では岐阜女子とも熱戦を展開、第3Q終了間際に逆転した浜松開誠館は鈴木侑、石牧葵の高い得点力を駆使して逃げ切りを図るが、残り2秒で岐阜女子・池田沙紀の3Pで追いつかれ延長に持ち込まれる。そのまま岐阜女子の勢いに押されて敗れたが、安城学園、岐阜女子という全国屈指の強豪相手に延長戦まで持ち込んだ浜松開誠館の底力とタフネスには驚かされるとともに、今後のさらなる飛躍が期待できる戦いぶりであった。

**【全国高校総体】** 平成30年8月1日～ 一宮総合体育館、パークアリーナ小牧 他

男子は2年連続の**飛龍**、3年ぶりの**藤枝明誠**、女子は3年連続の**浜松開誠館**、そして3年ぶりとなる**常葉大常葉**が出場した。

藤枝明誠は大相撲名古屋場所でお馴染みの**愛知県体育館(ドルフィンズアリーナ)**で大会最多22回の優勝を誇る古豪・**能代工業(秋田)**と対戦、接戦に持ち込んだが相手の速い寄りへの対応が遅れ、4年ぶりの総体勝利はならなかった。飛龍は**光泉(滋賀)**、**文星芸術大附属(栃木)**に快勝、危なげなくベスト16に進み優勝候補の一角、**北陸(福井)**と対戦。序盤から北陸の速い攻めと留学生**ダンテ・スレイマニ**の高さに苦しみリードを許すが、**高須崇介**、**山村祥太郎**が3Pを続けざまに決めて必死に食い下がる。一進一退の攻防が続くが、ディフェンスリバウンドからブレイクという北陸のお家芸を崩しきれず、惜しくも2年連続のベスト8進出は果たせなかった。

常葉大常葉は**聖和学園**と対戦、両チームとも逆転、同点、再逆転を繰り返す壮絶な試合となり、最後はウィンターでも**浜松開誠館**が翻弄された今野のオールラウンドなプレー、中でも相手を巧みにかわす軽快なジャブステップに惑わされ、2回戦進出ならず。浜松開誠館は**鶴沼(神奈川)**、そして強豪・**山形市立商業**を破った**西原(沖縄)**を圧倒敵な強さで破り、ベスト8を賭けて挑んだ関東王者・**八雲学園(東京)**戦は息詰まる熱戦となった。昨年ウィンターで1試合62得点の大会新記録を樹立した**奥山理々嘉**という超高校級の点取り屋に対し、鈴木が粘り強いディフェンスで突破口を封じ活路を見出し、後半で逆転に成功するが、勝負どころで相手に3Pを決められ4点差の敗戦、最後の最後で力尽きた。

**【東海国体】** 平成30年8月18日、19日 OKBぎふ清流アリーナ

たった1枠しかない本出場権を賭けた**少年女子**の熱い戦いが敵地・**岐阜**で繰り広げられた。**静岡県**は県総体4強に藤枝順心の1名を加えた布陣を編成、2週間前のインターハイで準優勝した**岐阜女子**の単独チーム・**岐阜県**と対戦した。本国体に出るためには岐阜、愛知を連破しなければならないタフな条件下で、前半はコート上の5選手が終始うまくかみ合った静岡県がリードを奪い、12点差で折り返す。特に留学生センターを徹底マークし、完全に攻撃の糸口を封じ込めた。後半に入って一時はその差を14点差にまで広げたが、**岐阜県**主将・**池田**のゴール下への鋭いパス運び、怒涛のカットイン、躊躇なく放たれる3P、そして巧みなドライブで徐々に点差を詰められ、残り1分33秒で72-73、ついに逆転を許す。その後両チームとも素晴らしいディフェンスを見せ、お互い得点を挙げる事が出来ずにタイムアップ。1点差で惜しくも決勝進出そして本国体出場を逃したが、スタメン出場した鈴木、石牧、**遠藤真帆**、**杉浦雅**が2ケタ得点を記録、さらに下級生の**山口郁実**、**松岡木乃美**、山本が合わせて15得点、筆舌に尽くしがたい死闘だったとともに今後への光明が大いに見えてきた好勝負であった。

**【福井国体】** 平成30年10月1日～ 福井県営体育館、福井市体育館

**静岡県**少年男子はフルエントリーで開催される**福井国体**に出場、1回戦から**尽誠学園**を母体とする**香川県**と対戦、勝てばインハイ3位・**東海大諏訪中心**の編成となる**長野県**との戦いが待ち受ける。強豪との対戦が続くが、昨年惜しくも3位に終わった悔しさを糧に「オール静岡」で半世紀ぶりの優勝を狙う。